

認知症疾患医療センター通信

令和元年11月14日発行 第7号

おれんぢコラム

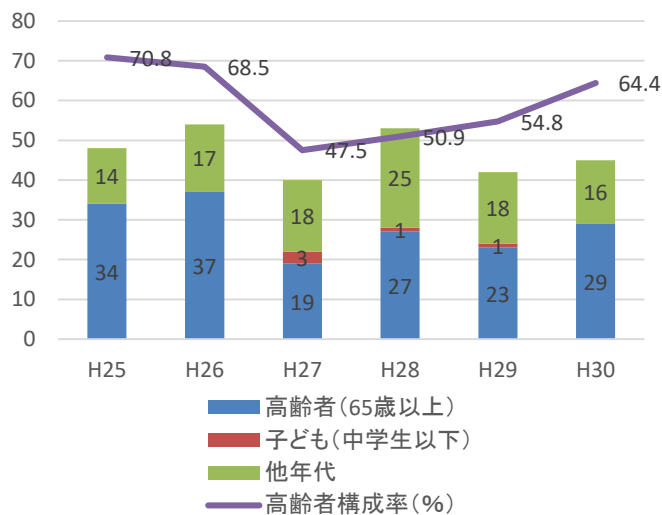
自動車等の運転者講習で大変興味深い講話がありましたので、皆さまにご紹介いたします。

昨年H30年度(2018年)に青森県内でけが人が発生した交通事故は2,966件、1日平均75件とのこと。負傷者3,649人。死亡者45人のうち高齢者は29人で全体の64.4%でした。

歩行中の死者16人中、高齢者は14人で全体の87.5%。少子高齢化の影響もあり、交通事故の多くの犠牲者は高齢者というのです。

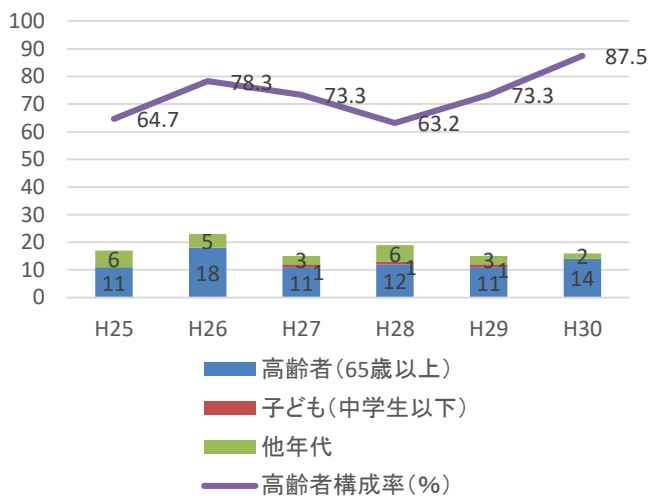
年齢層別の死者数の推移

(一財)青森県交通安全協会「青森県安全運転ガイド」より



歩行中の死者数の推移

(一財)青森県交通安全協会「青森県安全運転ガイド」より



「ドライバーから見て右から左へ歩行者等の横断事故が多い、つまり、高齢者は左方向への不注意が多い」との講師の言葉にハッとした自分が居ました。

乗り物を運転する皆さまの中で、歩行者や自転車・バイクが急に目の前を横断したという経験はありませんか？自身が運転する乗り物のほうが大きいから、速いから、正しい車線に居るからとの理由で、“横断してこないだろう”“こちらに気付いているだろう”と油断していませんか？

ハンドルを握るすべての人に責任があります。運転者・歩行者関係なく交通ルールを守らなければなりません。それに加え互いを思いやる心のゆとりを持って、譲り合うことも交通事故を防ぐ方法の一つです。自分自身の心にゆとりと譲り合う気持ちが薄れていたことに気づかされました。

また近年ブレーキとアクセルの踏み間違いによる交通事故が注目を集めています。事故の当事者だけではなく、高齢者に関する問題を社会全体で捉えて自分自身に何ができるのか、何をしなければいけないのか、考えさせられました。皆さまはいま何を思いますか？

RUN伴～らんとも～



令和元年8月24日午後1時30分。つくしが丘病院周辺の気温は27℃。頭上高く広がる青空を取り囲むように広がる入道雲が、残り少ない青森の夏を教えていました。この日私たちは青森市内にある7つの地域包括支援センターを一本のタスキをつないで走り抜けるチャレンジを行いました。全国で展開されている認知症の啓発イベントで、今年で3回目の参加となりました。青森で使用したこのタスキにはメンバー全員の署名をし、次の開催地に引き継がれます。各地域包括支援センターの職員さんばかりでなく、「見かけたので」と相談を申し出る方もいっしょに出会いを重ねてのゴールとなりました。認知症の人と一緒に誰もが暮らしやすい地域になるよう、私たちつくしが丘病院認知症疾患医療センターは応援とお手伝いをいたします！！



つくしが丘病院認知症疾患医療センターで検索 ←

つくしが丘病院ホームページ内にある認知症疾患医療センターのページをリニューアルしました。相談窓口についてのお知らせ、パンフレットと認知症疾患医療センター通信のバックナンバーをご覧ください。パソコンやスマートフォンから簡単にアクセスできますので、ぜひご覧ください。

URL: <http://aomori-tsukushigaoka.jp/page-1348>

発行者：青森県立つくしが丘病院認知症疾患医療センター運営チーム
〒038-0031青森市大字三内字沢部353-92
電話 017-788-2988（センター直通）

